

平和を創つくっていく学習

糸島市立志摩中学校 萩尾昌男

平和を創る

平和を創りたい理由は、大きく二つある。

一つ目は、同居の祖父母から聴いた戦争の悲惨さと平和への想いだ。祖父は戦時中に鹿児島で空襲に遭っている。一方、祖母は終戦直後に満州にいた。12歳そこそだった祖母は、ソ連兵から逃れるために頭を丸め男装をして、命からがら帰国している。2人はよくこの話をしてくれた。話の終わりにはいつも、二度と体験したくない、誰にも体験してほしくないと言っていた。この言葉が心の奥に残っている。

二つ目は、教師になり、生徒に平和を創っていく力を育みたいという想いが生まれてきたからだ。

今から20年以上前になるが、私

や被害の写真を見たり、空襲に遭った方の証言を読んだりして感想を書くことが多かった。その学習を経て、当時の私は「戦争は恐ろしい」「戦争は起きてほしくない」という想いが、より強くなった。一方で、「戦争中に生まれていなくて良かった」という想いも、正直私の心にあった。私たちに授業をしてくださった先生は、そのような感想を持つてほしかったのだろうか。

平和とは何か

平和を創る上で、平和とは何か、という問いが自然と生まれる。私ははじめ、戦争が起きていない状態だと考えた。国語辞典で調べてみると、『利害の相反する者どうしが、争わずに共に成り立っていること』とも

書いてある。つまり、平和とは利害の相反するときも、戦争や暴力、仲間外しやいじめなど、争ったり排除したりする手段を選ばずに、共存できる手段を探して選ぶことができる状態ということだ。

平和を創っていく学習

前述した平和の意味から考えると、平和を創っていく力とは、共存できる手段を探す力や、その選択肢を選ぶ力といえる。

では、どのようなときにこの力が育まれるのだろうか。それは『利害の相反する』場面だ。ここでいう利害は、自分が損するか得するかだけではなく、考えや価値観が相反する場面も含むと考える。

平和学習では、生徒たち自身が考えや価値観を揺さぶられるような場面に直面する機会を創っていくべきだ。そして、議論し合いながら、新たな考えや価値観に気付き、深め、身に付けてほしいと思う。

例えば本校の平和学習では、中学3年生でアメリカのリッチランド

のロゴマークについて取り上げる。リッチランドは、日本に落とされた原子爆弾の核燃料を製造した都市だ。キノコ雲は、この街にとって業績を表すシンボルだと考える住民も多く、高校のロゴマークに使われている現実がある。生徒たちは、リッチランドに住む人々へのインタビュー動画などを通じて、自分の考えや価値観と相反する場面と出会う。そのとき、他者を排除したり、攻撃したりするのではなく、共存に向けて他者を理解し、何が必要か、真剣に議論に取り組むことを大切にしている。

また、真剣な議論に向かおうとする姿勢は、おそらくこれまで空襲の被害について知ったり、修学旅行で長崎の原爆資料館を訪問してその凄惨な状況を知っていたりすることから生まれるものだろう。平和を創っていく力を育んでいくためにも、戦争を起こしてはならないという気持ちを高める学習の大切さをあらためて感じる。

前述した学習もそうだが、簡単に答えが出る内容ではない。だからこそ、平和を創っていく学習を再考し、毎年改善し続けていきたい。